

地域学校協働連携NEWS

「これは何の足跡かな？」アニマルトラッキング 荒海小学校

2月21日(火)に荒海小学校のアニマルトラッキングを訪問しました。教室でレクチャーを受けた後、元気いっぱいの3年生11名が、穴沢川に沿って校舎裏手の森林を探検しました。



「これは何の足跡でしょう？」害獣駆除などにも携わる阿久津毅一さんと阿久津研二さんが親子で指導してくださいました



教室での基礎講習を終えると、スキーウェアを着て「かんじき」を装着！ 「転ばないように足を外から回すようにして歩こうね」



「木にぶら下がっているのは何かな？」 「熊が木に登って実を食べた跡『熊だな』」 「笹の葉っぱがないのはなぜだろう？」



「足跡から予想されるウサギの動きは…」 「シカは立ち上がり木の皮を食べます」 「杉の皮を使ってリスが巣を作るんだよ」



「姿は見えないけど、実は、みんなの家のまわりを獣たちがうろろしているんだよ。」ガイドをしてくださった阿久津研二さんのお話には、子供たちはどんどん引き込まれていきました。授業後、阿久津さんから「狩猟文化が衰退に合わせて、獣たちが人里に下りてくるようになりました。父親が鉄砲をやめるのに合わせて、数年前に猟銃の免許を取って駆除にあたっていますが、年々依頼が増えていると感じます。『生き字引』である父親の経験も伝えていきたいと思い、今年度は、荒海小も含めて郡内4校でガイドをしました。子供たちには、これをきっかけに今まで目に入らなかった身近なものに目を向けてほしいと願っています。」と、指導に寄せる思いを話してくださいました。
探検の途中、阿久津さんの呼びかけで、降ってきた雪の粒を観察しました。結晶の美しさに歓声を上げる子供たち。子供たちの目に映る世界が変わった瞬間でした。